

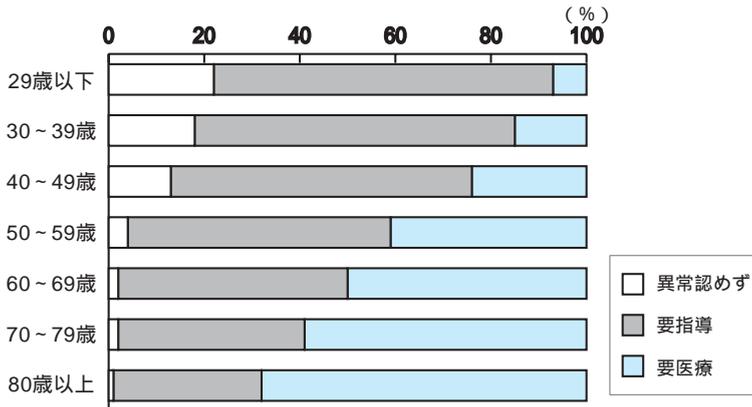
平成16年度 総合健診結果のまとめから

市民の皆さんの健康管理に役立てていただくため、昨年4月から7月の間に35会場で総合健診を実施しました。

結果、5,228人の方が受診され、その結果がまとまりましたので報告します。

5,228人の 基本健診受診結果より

◆図1 基本健診受診者の年齢区分と判定結果



最近では、血圧、血液脂質、血糖などの検査値は、それぞれが軽度の異常でも内臓に脂肪が蓄積した肥満があり、「要指導」判定の検査項目がいくつか重なることで、動脈硬化の進行が加速することが分かってきました。「要指導(要注意、要精密検査)」の範囲だから大丈夫なのではなく、少し高めの検査項目の数にも注意し、早めに生活習慣を改善しましょう。これは、心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患や、脳血管疾患の予防につながります。

■年齢と判定結果について

基本健診では身体計測、血圧測定、尿、血液検査、心電図、眼底検査などを行います。体の注意信号をいち早くキャッチし、生活習慣の改善に役立ててもらうことが目的です。

受診者の年齢ごとの判定結果(図1)をみると、年齢が大きくなるほど「異常認めず」の判定が減り、「要医療」の判定が増えていくことが分かります。

■年齢と検査項目の異常について

表1は、年齢ごとにどのような検査項目での異常値が多いのかを集計したものです。これは、受診された皆さんの健康状態を表しています。各年齢で、どのような異常が多いのかを参考にしてください。

◆集計結果から分かること

- ① 20歳、30歳代では「肥満」が最も多い
- ② 50歳を超えると、4人に1人は「肥満」となっている
- ③ LDL(悪玉)コレステロール値の異常者は、50歳を超えると3人に1人となっている
- ④ 血圧は、加齢とともに異常者の割合が増え、60歳を超えると2人に1人は最高血圧値に異常がある

各年齢により、異常の内容も割合も変化しています。

そして、命にかかわる虚血性心疾患や脳血管疾患の危険因子となる血圧、血液脂質、糖尿、さらにこれらの誘因となる肥満の項目で異常値の認められる方が多いことも分かれます。

◆表1 年代別異常検査項目ベスト5

	20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上	
1位	肥満	11% (14人)	肥満	17% (63人)	LDL異常	19% (107人)	LDL異常	37% (323人)	最高血圧異常	40% (563人)	最高血圧異常	53% (991人)
2位	尿酸異常	10% (13人)	中性脂肪異常	14% (51人)	中性脂肪異常	16% (90人)	最高血圧異常	30% (260人)	LDL異常	36% (508人)	LDL異常	30% (567人)
3位	中性脂肪異常	8% (10人)	LDL異常	11% (41人)	肥満	14% (79人)	肥満	24% (212人)	肥満	25% (355人)	肥満	22% (402人)
4位	LDL異常	6% (8人)	尿酸異常	8% (30人)	最低血圧異常	9% (51人)	中性脂肪異常	22% (189人)	中性脂肪異常	21% (292人)	血糖異常	19% (360人)
5位	HDL異常	5% (6人)	HDL異常	5% (17人)	最高血圧異常	9% (49人)	最低血圧異常	21% (181人)	最低血圧異常	20% (277人)	最低血圧異常	18% (331人)
総受診者数	133人		371人		559人		878人		1,424人		1,863人	

※ LDLは悪玉コレステロール、HDLは善玉コレステロール